

看護研究バックナンバー(内容紹介)

Suppl.

Vol.
46
No.
04

(増刊号)

特集 | 質的研究方法を用いた博士論文作成指導の技法 メンタリングプロセスに焦点を当てて

- 本研究のこれまでと概要 萱間真美
- 質的研究を行なう博士課程の学生指導— Mentoring Doctoral Students in Qualitative Research Christine A. Tanner 監訳: 萱間真美
- 博士論文作成指導におけるメンタリングプロセス—『Journal of Nursing Education』への投稿を通じて 萱間真美, グレグ美鈴, 麻原きよみ, 山本則子, 大熊恵子, 太田喜久子, 木下康仁
- 博士論文の指導と審査, および分析基礎力の指導例 木下康仁
- 質的研究の経験から—論文指導, 学習のヒント 山本則子

【ディスカッション】

- 質的研究方法を用いた博士論文作成指導において何が重要か 中山洋子, Christine A. Tanner, 山本則子, 木下康仁, 萱間真美, 大熊恵子, グレグ美鈴, 麻原きよみ

〈ディスカッションへのコメント〉 麻原きよみ

- 博士論文作成指導に関する今後のあり方—私はこう考える ①グレグ美鈴 ②中山洋子

●特別記事

「APAに学ぶ 看護系論文執筆のルール」から考える, 研究論文を書くためのヒント—第32回日本看護科学学会学術集会/(株)医学書院共催ランチョンセミナーより 江藤裕之, 前田樹海

●原著論文

質的研究方法による学位論文作成に際して看護系大学院生と指導教員が遭遇する困難—医学系研究科博士課程における聞きとりより 大熊恵子, 関本朋子, グレグ美鈴, 大川貴子, 竹崎久美子, 麻原きよみ, 山本則子, 太田喜久子, 木下康仁, 萱間真美

●総説

人工呼吸器関連肺炎のリスクと予防—看護研究への示唆 矢野武志

MAY
JUN

Vol.
46
No.
03

特集 | 認知症の当事者研究のために 老年看護学の視座を拓く

- なぜ, 認知症の当事者研究なのか—認知症ケアの歩みと未来 中島紀恵子
- 認知症の当事者研究とは何か—超高齢社会の生き方・看護・研究の共創に向けて 永田久美子
- 医師の立場からみた認知症の当事者研究 木之下徹, 水谷佳子, 安田朝子, 本多智子
- ドキュメント認知症当事者研究の誕生—芋虫が蝶に変わるように 川村雄次
- 認知症の本人と共に生きるケアの実践—センター方式の取り組みを中心に 櫻井記子
- 当事者と共につくる個別ケアと地域包括ケアのダイナミックな運動—行政事務職の立場から考える 稲垣康次

【座談会】

- 認知症の当事者研究から見えてくるもの

中島紀恵子, 永田久美子, 木之下徹, 稲垣康次, 川村雄次, 櫻井記子

【講演】

- 認知症と生きる クリスティーン・プライデン 翻訳: 馬籠久美子

●連載

看護における質的研究の前提と正当性・3 ガダマーについて—看護研究におけるその意義 家高洋
Words, words, words. 研究と言語—質的研究のために⑨ 区別と名づけ 江藤裕之

MAR
APR

Vol.
46
No.
02

特集 | 看護学における事例研究法 新たな研究デザインへの可能性

- 事例研究法における認識論的課題 内田雅子
- 時間的経緯を踏まえた看護学における事例研究法の意義に関する論考 黒江ゆり子

【看護実践における事例研究】

〈事例報告から事例研究へつなぐプロセス〉

- 研究課題の明確化 伊波早苗
- 事例研究におけるデータ収集と分析 東めぐみ

〈事例研究の実践〉

- 看護実践者が行なう事例研究の一試案—糖尿病看護における待つ看護の検討 東めぐみ

- 2病院に通院する複合疾患患者の心不全のコントロールと生活調整 仲村直子

- C型肝炎患者の不確実性の受けとめの変化プロセスと支援の検討 長谷佳子

- 倫理的課題を乗り越えた先にあるもの 小長谷百絵

- 実践知につなぐ事例研究—事例の事例研究から複数事例研究へ 木下幸代

- 看護研究, 事例研究法における倫理—弁護士の視点から 増田聖子

- これからの事例研究法の意義と可能性—事例研究会の取り組みを通じて 野並葉子

●特別記事

米国の看護研究の先端を行く 2012 State of the Science Congress on Nursing Research に参加して 松田結

●連載

看護における質的研究の前提と正当性・2 言語について 家高洋
Words, words, words. 研究と言語—質的研究のために⑧ 言語の特徴 江藤裕之

